

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

3104号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座001110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



初冬の瑠璃沼 (福島県北塩原村)

もくじ	
随情情情	情活活
想報報報	報動動
令和2年度政府予算編成で要請活動 町イチ！村イチ！2019を開催！町村から日本を元気にする！ 380町村が東京国際フォーラムに集結！ これからの農業・農村政策のあり方についての提言 都市・農村共生社会の創造を公表	(2)
国政情報	(4)
町村ご当地キャラじまん	(8)
町村を元気にするJICA海外協力隊	(9)
真の豊かな島暮らし	(10)
鹿児島県和泊町長 伊地知 実利	(11)
	(14)

コラム

住まいの「物語」を整理するー空き家活用支援の新たな形

東洋大学国際学部国際地域学科教授 沼尾波子

最近、ダイエットや英語学習など、専門的な知見を持ったコーチが伴走しながら成果に結びつけるサービスが人気だ。単に知識や技術を伝えるだけでは成果は出るとは限らない。「痩せる」「英語を上達させる」という明確な目標を持ち続けること、そして、専門性を持ったコーチが、受講者の不安を解消しながら、楽しく課題に取り組みするための伴走型支援を行うことで、成果につながるのだろう。

空き家整理・活用においても、そんな「伴走」が必要だ。そう思ったのは、福井県美浜町にあるNPO法人ふるさと福井サポートセンターの活動を見聞したときのことである。この団体は、空き家をもつ住まいの「物語」を見つめなおすきっかけづくりとともに、その整理・活用について早期決断するための支援を行っている。空き家を利活用する道を開いている。空き家を地域の茶の間に「コミュニティ」の拠点とした例、シェアハウスとして宿泊施設に展開した例、移住者を呼び込み、新たなつながりや賑わいを作った例など、空き家に新たな命と役割が与えられることで、地域のなかに新しい活動や繋がりが生まれていた。小学校では、空き家調査から地域の今を学ぶとともに、空き家カフェの取り組みも行われていた。

町村部では、空き家は多くあっても、不動産賃貸や売買の市場にはなかなか出まわらない。都会の若者が地方移住を考えると、空き家はあっても、住む家が見つからないという話を聞く。人口減少が進むなかで、新たに外から人を受け入れ、地域の持続を考えようとするれば、空き家活用は大きな力になる。なぜ空き家の活用が進まないのか。住まいにはそこで暮らした家族の「物語」がある。空き家の整理とは、家財道具や仏壇の整理等を通して、その物語を整理することでもある。また、住まいの売却や賃貸には、多くの手続きもあり、場合によっては費用も発生する。さらに賃貸となれば、「コミュニティ」としても、新たな隣人を受け入れるかどうかの決断を求められる。これだけ多くの不安や懸念をもったまま、空き家活用と言われても、所有者は気が重くなり、つい決断を先延ばしにしてしまつのだそうだ。そのハードルを下げ、空き家の利活用に向けた早期決断へとサポートする仕組みを作っていることに驚かされた。

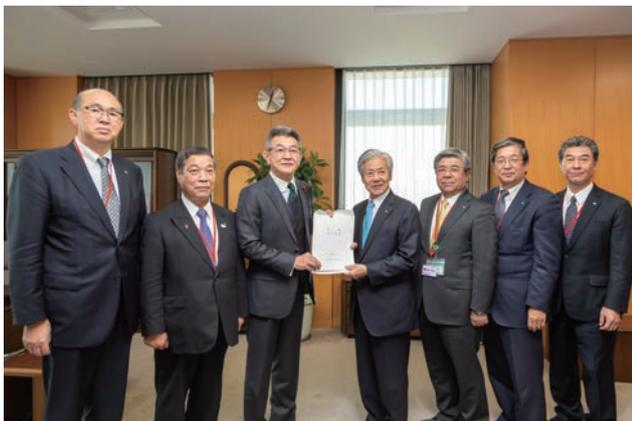
2018年の「住宅・土地統計調査」によれば、全国に846万戸の空き家があり、総住宅数の13.6%を占めるという。特定空き家を増やさないためにも、早期決断を支援するこんな取組みが求められている。

写真キャプション

磐梯高原の五色沼湖沼群の一つである瑠璃沼は、珪酸アルミニウムとウカミカマゴケの影響で瑠璃色になっていると推測されている。摩周湖並みの21mという透明度を持ち、冬は青く、春は緑色がかかるのが特長。標高825mに位置し、展望デッキからは沼越しに磐梯山を眺望できる。

全国町村会

令和2年度政府予算編成で要請活動



内閣府 武田内閣府特命担当大臣（防災）（左から3人目）



自由民主党 鈴木総務会長（右から2人目）



農林水産省 本郷林野庁長官（左から2人目）



農林水産省 江藤農林水産大臣（中央）

全国町村会は、令和2年度政府予算編成を控え、11月28日に政府予算対策本部を設置するとともに、12月4日に正副会長会を開催し、会議終了後、正副会長・顧問等が11月27日の全国町村長大会で採択した決議、特別決議・緊急決議及び全国町村長大会要望の実現方について、自由民主党、内閣府、総務省、厚生労働省、農林水産省に対し、実行運動を行った。

特に、今大会において、特別決議のうち、頻発する自然災害、海外農産物の輸入拡大、担い手不足など農業・農村を取り巻く環境が急激に変化し、「食料・農業・農村基本計画」改定の節目の年にあたるため、江藤農林水産大臣に対し、農村価値の創生に向けた積極的な対応を求めることを内容とした「農村価値の創生に関する特別決議」及び「これからの農業・農村政策のあり方の提言書」を手交し、実行運動を行った。

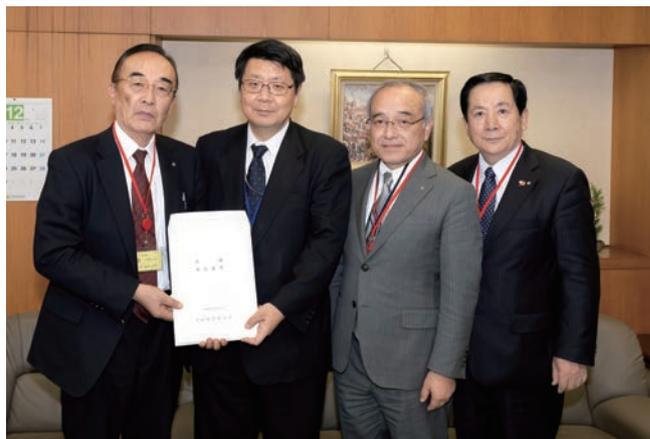
また、総務省に対し、新たな圏域行政の法制化やスタンダード化が進められれば、団体自治・住民自治に基づく町村の存立基盤をゆるがしかねないことから、新たな圏域行政の推進に断固反対する「これからの町村行政と新たな圏域行政に関する特別決議」を手交し、実行運動を行った。

※決議・特別決議・緊急決議・大会要望は、町村週報3103号（12月16日付）をご参照下さい。なお、全国町村会ホームページ（<http://www.zck.or.jp/>）からもご覧いただけます。

活 動



総務省 鈴木総務事務次官（中央）



農林水産省 山口水産庁長官（左から2人目）



厚生労働省 鈴木厚生労働事務次官（中央）



総務省 黒田総務審議官（中央）

要請活動参加者

【自由民主党】

荒木会長（熊本県嘉島町長）

棚野会長代行・副会長（北海道白糠町長）

太田会長代行・副会長（静岡県東伊豆町長）

【内閣府・総務省】

荒木会長（熊本県嘉島町長）

棚野会長代行・副会長（北海道白糠町長）

太田会長代行・副会長（静岡県東伊豆町長）

原田副会長（山形県庄内町長）

岩田副会長（千葉県東庄町長）

杉本副会長（福井県池田町長）

【厚生労働省】

小椋副会長（福島県北塩原村長）

古口副会長（栃木県茂木町長）

椎木副会長（山口県周防大島町長）

藤原顧問（長野県川上村長）

【農林水産省】

荒木会長（熊本県嘉島町長）

棚野会長代行・副会長（北海道白糠町長）

太田会長代行・副会長（静岡県東伊豆町長）

庵途副会長（兵庫県佐用町長）

稲本副会長（愛媛県内子町長）

黒木経済農林委員（宮崎県西米良村長）

▶メイン会場は終日来場者で賑わった



町イチ！村イチ！2019を開催 380町村から日本を元気にする

ニーマルイチキョウ

はじめに

全国町村会（会長・荒木泰臣熊本県嘉島町長）は、11月30日（土）、12月1日（日）の両日、東京国際フォーラム（千代田区）で「町イチ！村イチ！2019」を開催しました。このイベントは、

2019「町イチ！村イチ！2019」を開催しました。このイベントは、町村が一堂に会し、それぞれが持っている特産品や観光資源などの「宝」を都会の人たちにアピールすることを目的として2011年に第1回を開催、今年で5回目となるものです。

メイン会場である東京国際フォーラムでは、毎回ご好評をいただいている特産品の展示・販売やご当地グルメの食堂コーナー、ステージ上では郷土芸能やパフォーマンスの披露、ロビーギャラリーでは来場者参加型のアトラクションやパンフレットの展示に加え、伝統工芸の実演・体験コーナー、被災地復興応援マルシェも設けました。また、サテライト会場である有楽町

駅前広場には初ものPRに加え、小さくてもキラリと光る町村コーナーを設け、首都圏では未だ流通されていない希少品や、人口が少なくても魅力あふれる町村のPRを行いました。全国から380町村が参加した本イベントには、2日間で約53,000人の皆様に足を運んでいただき、開催5回目にして過去最多の来場者数を記録しました。

オープニングセレモニー

「町イチ！村イチ！2019」町村から日本を元気にする」の開会に先立ち、主催者を代表して荒木全国町村会長が東京国際フォーラム・メインステージで開会式を行いました。熊本県PRマスコミキャラクター「くまモン」や宮城県大和町の「アサヒナサブロー」などのご当地キャラクターも登場する中、荒木会長は「このイベントはご来場者の方々に町村が持っている個性豊かな魅力と素晴らしさを伝える

活 動



▲ステージ上で挨拶をする荒木全国町村会長

絶好の機会であると考えています。ひとりで多くの方に町村のファンとなっていたら、頑張っていきたい」と出展町村など関係者に向けて呼びかけ、「日本を元気にするのは『町イチ！村イチ！』との全員の大きなかけ声とともに、正午に開幕しました。メイン会場・ホールEの入口にはオープン前から長蛇の列ができ、入場までに1時間程度お待ちになった方もいました。両日ともに、開場後から終了時まで来場者が絶えず、メイン会場、サテライト会場とも、大いに賑わいを見せていました。以下、各コーナーの概要を紹介します。

各コーナーの紹介

◇東京国際フォーラムホールE(B2F)

○特産品展示・販売コーナー

ホールE(5,000㎡)では、北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州の7つのエリアに分かれ、約260の展示・販売ブースが並び、約2,200種類の都内ではなかなか手に入らない特産品が出品されました。紀州みなべの南高梅を高精度ミニトマトの果汁で漬け込み、甘いトマト味のまろやかな風味でデザート感覚に仕上げた和歌山県みなべ町の「とまと梅」や、世界最大の柑橘類「晚白柚」がそのまま詰まった熊本県氷川町の「晚白柚ジュレ」、柿田川湧水と



▲ゲストの水戸なつめさんによる「くつした」のトーク(奈良県広陵町)

最高品質の伊豆天草で丁寧手作りしたところてんを使った静岡県清水町の「柿田川名水あんみつ」、炭酸の清涼感といっしょに搾りたてのオリープの香りが広がる、香川県小豆島町の「オリープサイダー」など、各町村がそれぞれの「宝」である選りすぐりの品々を持ち寄り、試飲・試食や地元特産品を懐かしむ方など多くの来場者に楽しんでもいただきました。

○町イチ！村イチ！食堂

自慢の食材を使った料理がその場で食べられる「町イチ！村イチ！食堂」には50以上の町村が出展しました。今



▶オリープの加工品(香川県小豆島町)

回は肉料理が特に豊富で、地元のブランド肉をふんだんに使った愛知県美浜町の「恋美豚DON♡〜とろける角煮丼〜」や、しっとりした赤身が食欲をそよる福島県会津坂下町の馬肉を使用した「桜肉のにぎり」、地元でも大絶賛されている鹿肉を使用した和歌山県古座川町の「ブルコギサンド」、きりたんぼの元祖で比内地鶏を使用した秋田県五城目町の「だまご鍋」など、多くの来場者が普段東京では味わえないご当地グルメに舌鼓を打っていました。完売も相次ぐほど盛況で、多くの注目を集めていました。

○町イチ！村イチ！ステージ

町イチ！村イチ！ステージでは、各町村の郷土芸能やPR活動が行われま



▲売り切れる店舗が続出した食堂コーナー

活 動

▶秋田県羽後町の西馬音内盆踊り



した。秋田県羽後町の「西馬音内盆踊り」や、北海道東川町の日本初の地域おこしアーティスト「ドートレトミシー」によるパフォーマンズが披露され、大いに盛り上がりました。また、奈良県広陵町によるステージでは、奈良県出身でモデルやアーティストとしてマルチに活躍する水戸なつめさんをゲストに迎え、特産品である「くつした」のPRをトークショー形式で行い、たくさんの方々が足を止めて興味を示していました。

○ご当地キャラクター
「町イチ！村イチ！」では全国各地



▲全国からご当地キャラクターが大集合

のご当地キャラクターが一堂に会し、毎回イベントを大いに盛り上げてくれます。町の魚アイナメがモチーフの青森県階上町の「あぶらめくん」、茨城県城里町のシンボル大樹「スタジイ」に住むという伝説のフクロウがモデルの「ホルル」、兵庫県神戸町の地形と同じハート型の顔をした森の妖精「カーミン」など、今回は80体以上が会場に登場し、たくさんの方々とふれあいました。

◇東京国際フォーラムロビーギャラリー

○町村PRコーナー

「来場者と町村との縁結び」というテーマを掲げ、タブレット型のおみく

じを使用し、ご縁のある町村のオリジナルコースターをプレゼントするという来場者参加型のコーナーを設置しました。オリジナルコースターには、出展町村の魅力ある写真と紹介文がプリントされており、参加した人は、大きな日本地図のオブジェに設置された該当町村のコースターを探したり、ひとつひとつのコースターに見入ったりしていました。また、友人や親子同士で引き当てた町村のコースターを見せ合う姿が印象的でした。さらに、興味を持った方は、併設されたタブレットコーナーに移動し、タブレットに手を伸ばさず姿も多く見られました。その

▶町村との縁結び企画に参加する来場者の方々



▲パンフレットを手にする様子

ほか、各地域のご当地キャラクターとフォトスポットにも、絶えず多くの方が写真を撮りに訪れていました。

○伝統工芸実演・体験コーナー

伝統工芸実演・体験コーナーは、第1回から継続して開催している「町イチ！村イチ！」ならではのコンテンツです。今回は、福島県柳津町の「あかべこ絵付け体験」、新潟県関川村の「猫ちぐら製作実演」、長崎県波佐見町の「波佐見焼アクセサリー作り体験」、奈良県三宅町の「ペンケース作り体験」など、15のブースで伝統の技が来場者に披露されました。ご年配の方から小さなお子さんまで、多くの来場者が匠の指導の下、実際に伝統工芸を体験し、

活 動

思い思いの形やデザインに仕上げた品を眺めながら、今日だけの貴重な体験に満足している様子でした。

○被災地復興応援マルシェ

被災地復興応援マルシェでは、東日本大震災や西日本豪雨、北海道胆振東部地震等で被災した地域の復興応援や、風評被害払拭を目的として、来場者に名産品等を紹介し、販売も行いました。

◇サテライト会場 有楽町地上駅前広場

○初ものPR

このコーナーでは、首都圏では未だ流通していない希少品を「初もの」と



▶ペンケース作り体験(奈良県三宅町)



▲被災地復興応援マルシェ

銘打ち、16町村が出品しました。県内で初めて日本ワインコンクールで受賞した宮城県南三陸町の「DELAWARE 2018」や、2017年に限定3,000本が販売され、残り僅かとなっている希少な逸品である福岡県岡垣町の「本格焼酎岡垣」、無農薬で作られた静岡県南伊豆町の「にんじんジュース」といった飲料に注目し、その土地ならではの珍しいお酒やジュース、コーヒー等を試飲やディスプレイ、説明文を通じて来場者に紹介しました。

○小さくてもキラリと光る町村コーナー
人口が少ない町村にスポットを当てた「小さくてもキラリと光る町村コーナー」では、特産品の展示・販売を通じて人口が少なくても魅力あふれる町

村をPRしました。鹿児島県東串良町のご飯のお供にはもちろん、野菜につけても美味しい「黒豚みそ」、秋田県東成瀬村の、あずきと餅米を使い、もちもちとして食べ応えのある逸品として有名な「あずきでっち」などが出品され、有楽町駅前というところもあり、多くの街行く方々が訪れ、ふるさとの味覚に魅了されました。

おわりに

今回で5回目の開催となった「町イチ！村イチ！2019」は、多くの方にこ来



▶初ものPRコーナー

場いたたき、過去最多の53,000人を記録しました。これもひとえにご参加いただいた町村並びに各都道府県町村会関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物です。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

町村は、依然として少子高齢化や過疎化など厳しい状況に置かれています。田園回帰の動きを加速させ、都市と農山漁村がお互いの価値を認め合い、ともに生きる社会をつくることは、日本の未来を切り開いていくために重要なことです。「町イチ！村イチ！」がそつした動きにつながるきっかけとなり、「町村から日本を元気にする」という目的達成の一助になれば幸いです。



▲小さくてもキラリと光る町村コーナー

情 報

これからの農業・農村政策のあり方についての提言 ～都市・農村共生社会の創造～を公表 全国町村会

全国町村会では、11月26日の理事会で「これからの農業・農村政策のあり方についての提言～都市・農村共生社会の創造～」を決定し、公表した。

現在、農林水産省では、来年度以降5年間の新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定に向けた審議を行っており、この機を捉えて提言を行ったもの。

全国町村会では、5年前に提言を行っているが、その後の頻発する自然災害や海外農産物の輸入拡大、人口減少による担い手不足、東京一極集中の深化、ICTの飛躍的進展など農業・農村をとりまく環境が急激に変化していることから、今回、新たな提言を行うこととし、小田切徳美明治大学教授を座長とする研究会で検討し、経済農林委員会できりまとめたものである。



全国町村会

この提言では、現在の農政が「農業の成長産業化」や「強い農業」をめざした政策展開を進めていることに懸念を示し、現行基本計画策定期間にあわせて2014年9月にとりまとめた本会提言（都市・農村共生社会の創造）を引用し、「農業の発展」「農村の振興」「多面的機能の発揮」という3つの重要な視点のバランスを均衡させることが重要だと改めて訴えた。

そのうえで、この3つの視点を連携・発展させる政策を自治体が担う「農村価値創生政策」として位置づけることも、その政策を支援するため、既存の補助金等を整理統合した自由度の高い交付金「農村価値創生交付金」の創設を訴えた。また、これらの取組をサポートする人材「地域農業マネージャー」の制度設計も求めた。なお、「農村価値創生交付金」については、各府省の産業政策と地域政策の連携を図るための〈呼び水〉〈つなぎ役〉としての活用があることや、現実的なアプローチとして、現行の日本型直接支払制度

等からの移行についても言及した。

そのほか、「農村価値創生に向けた政策・事業の推進」や「農業・農村を取り巻く災害等不確実性への対応」についてその必要性を指摘し、政策推進の源となる「国と自治体のパートナーシップの構築」についてもその重要性を改めて訴えた。

最後に、農業・農村ビジョンの明確化と国民理解の促進を求めるとともに、現行の「食料・農業・農村基本法」の必要な見直しについても言及した。

この提言の内容が、新たな「食料・農業・農村基本計画」に反映され、町村をはじめ自治体の現場に活かされ、農業・農村政策の更なる充実発展を通じて農村価値創生の一助となることを願っている。

そのため、この提言書は、国など関係方面への要請活動や、マスコミ等に配付し、本会活動への一層の理解促進に活用していく。なお、11月27日の全国町村長大会で決定された「農村価値の創生に関する特別決議」は、この提言書を元に作成したものである。

提言書本文については、全国町村会ホームページ（<http://www.zokor.jp/>）に掲載しているのをご是非ご一読いただきたい。

情 報

国 政 情 報

◎平成の大合併の検証テーマにシムボジウム・日弁連

日本弁護士連合会は11月6日、「平成の大合併を検証し地方自治のあり方を考える」をテーマにシムボジウムを開催。その中で、日弁連が「合併・非合併町村の人口動態等の分析」を発表した。「分析」は、合併しなかった小規模町村と同規模で合併した旧町村の47件について10年間の人口動態、財政状況などを比較した。その結果、人口減少率は47件中43件、高齢化率では47件中41件で非合併町村の方が合併旧町村より低く、実質収支比率は41件で上昇していた。日弁連は、非合併町村では役場機能が保たれ、地方公務員数も減っていない等が背景にあるとしている。

◎「関係人口」の創出・拡大でフォーラム開催―総務省

総務省は11月15日、「関係人口創出・拡大フォーラム」を開催した。田中輝美副大臣が「地域づくりの担い手を増やすヒント」と題する基調講演で、地域課題を都会の若者に提起するなど関係

人口創出・拡大に向けた取組を提案した。また、2018年度「関係人口創出事業」モデル事業の事例発表で、関係人口とつくるJR三江線跡地を活かした地域持続モデルの模索(島根県邑南町)、「踊る阿呆」と「見る阿呆」がまちづくりで連携し徳島ファンを増やす(徳島県)などが紹介された。また、「ワーケーション自治体連合」が全国の65自治体が参加し11月18日発足した。ワーケーションとは都会の人がリゾート地などで一定期間働く新たな勤務形態。和歌山県など7道県と58市町村が参加した。

一方、地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業推進法(議員立法)が11月27日、成立した。人口急減が深刻化している地域に都道府県知事が認定する事業共同組合を設立、組合に登録した若者を同地域内の農林漁業等へ派遣するもので、国・自治体は財政面で支援する。過疎地域の振興とふるさと回帰の動きをマッチングするもので、事業規模約130億円を想定、国の財政措置約35億円が予定されている。

◎土地の管理・放棄抑制など法改正へ―国土交通省

国土交通省は11月18日、国土審議会の部会に土地基本法見直しに向けた骨子案を示した。現行の土地利用計画の「利用」「土地利用の規制」に新たに「管理」「誘導」を加えるほか、所有者不明土地の発生抑制、土地の放棄抑制も規定する。なお、同省調査では、土地所有者の約4割が土地を利活用しない理由を「何に活用していいかわからない」とし、約半数が今後も所有すると回

答。また、自治体からは空き地所有者への行政指導などで国に「ガイドライン策定」を求める声が多かった。なお、法務省は11月19日の法制審議会に「土地所有権の放棄」のたたき台(案)を示したが、全国知事会は放棄が土地所有者のモラルハザードを招かない要件設定と放棄後の土地管理は国が行うべきだとの意見を提出している。

一方、総務省の地方財政審議会は11月19日、2020年度の地方税制改正に関する意見を発表した。その中で、固定資産税の課税で所有者不明土地の相続人調査に多大な負担がかかるため現に所有している者に申告させるなどの把握手段の充実を求めるとともに、固定資産を使用しているが戸籍調査の不備等で所有者が1人も明らかにならない場合は「使用者」を「所有者」とみなして課税できる措置も提案した。

◎全国版スマート農業サミットを開催―農林水産省

農林水産省は11月20・22日、都内で「全国版スマート農業サミット」を開催した。同省は、今年度から最新技術を活用したスマート農業の社会実装推進のためスマート農業実証プロジェクトを展開しているが、同事業に参加している全国69地区の担当者やドローンやリモコン式草刈機など使用している農機類の展示やアシストスーツの体験などを行った。また、同省は11月21日、地理的表示(GI)保護制度の普及を目的に、ふるさと納税サイト「さとふる」内にGI制度の特設ページを開設した。今後は同サイト内からGI登録産品の返礼品が見つけやすくなるという。

一方、林野庁は創設された森林環境譲与税の市町村の使途事例を11月13日の全国市長会で紹介した。岡山県鏡野町では町と森林組合で「森林づくりセンター」を設置、

職員と地域林政アドバイザーで森林経営管理制度に対応。徳島県美馬市・つるぎ町では「やまじごと工房」で意向調査に着手した。高知県の町では地域に働きかけて放置竹林の整備、里山林整備、歩道整備を支援。また、愛知県豊明市と長野県上松町はこれまでの交流を踏まえ豊明市内の新生児に上松町の木工製品を贈呈している。

◎医療機関の統廃合等で世論調査を発表―内閣府

内閣府は11月22日、医療のかかり方等に関する世論調査結果を発表した。「24時間医療が行えるよう医療機関の統廃合」について賛成が69%で、反対28%を大きく上回った。反対理由では「所要時間が長くなる」(34%)、「医療機関が減り選択しにくくなる」(33%)が多かった。なお、医師の長時間労働改善については71%が「行政・医療機関、民間企業、国民全体が取り組むべき」と回答した。なお、医療機関の統廃合では、厚生労働省が今年9月に対象公立病院名を公表、地方側が強く反発し、現在「地域医療確保に関する国と地方の協議の場」で調整が進められている。

一方、国土交通省は11月18日、市町村のバリアフリーマップ作成の調査結果をまとめた。68%が同マップを作成しておらず、うち45%は「作成方法が分からない」と回答した。なお、同マップ作成状況は2013年以前が6割で、28%が地域住民や障害者等からの要請で作成。また、マップの対象施設は7割が施設情報だけで、移動経路情報は3割にとどまった。定期的に更新しているのも2割で、マップの有効性などの評価はほとんど実施されていない。同省は、検討会でバリアフリーマップ作成マニュアルの作成を進めており、来年春にもまとめる。(ジャーナリスト 井田 正夫)

町村

ご当地キャラじまん

Vol.54

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。今回は、東ブロック(北海道・東北・関東)からピックアップ。

東ブロック



優しく、いつも前向きで元気いっぱい。自称「イケメン」らしいアスタルとキリリとした眉毛が自慢。弓矢の腕前は百発百中。おでかけグッズの「たんがら」音のリュックがお気に入り。



大和町観光PRキャラクター

アサヒナサブロー

宮城県大和町

1993年に道路標識用のキャラクターとして誕生した「アサヒナサブロー」は、大和町のシンボルの山「七ツ森」を作ったとされる伝説の大男「朝比奈三郎」をモチーフとしています。つばらな瞳とおおらかな笑顔がかわいい、と老若男女から愛される人気者です。普段は、役場や観光物産協会などに居ることが多く、時々、七ツ森や南川ダムへお散歩に出かけることもあるのだとか。町内外の観光イベントなどには積極的に参加し、豪快に町の魅力をPR。古き良きものを愛する気持ちを持ちながら、意外に、ツイッターやフェイスブックなどのSNSを使いこなすイマドキ男子。語尾に「〜だよ」「〜してね」などをつけた優しい語り口調で、特産品や観光情報、美しく豊かな自然の移ろい、自分自身の日常などを発信しています。

八千代町イメージキャラクター

八菜丸

茨城県八千代町

生産量日本一を誇る「白菜」をモチーフにし、八千代町を全国にPRするとともに、町の農産物を印象づける役割として、2012年に誕生したキャラクター。名前は一般公募し、選考委員会による厳正なる審査の結果、全国からの応募総数約800件の中から選ばれました。八千代町の「八」、白菜の「菜」、丸く立派な白菜のイメージで「丸」、と3文字を組み合わせ、「八菜丸」と書いて、「はなまる」と読みます。凛々しい眉毛と大きくつばらな瞳、そして真っ白な美肌が自慢なのだとか。町の農産物全体の応援団長として、「白菜」はもちろんのこと、鬼怒川が育んだ豊かな土地で育てられた「あくと梨」や茨城県内2位の生産量を誇る「メロン」など、様々な果物や野菜をPR。ほかに、観光案内やイベント、日々の出来事など、町の様子や魅力を自身のフェイスブックから全力で発信中です。



11月7日(いい菜の日)生まれ、農家が丹精込めて作った野菜のように、愛情にあふれた性格。走ることが得意で、「筑波山がまっし」ご当地キャラの部スプリント部門で4度の優勝経験あり。嫌いなものは、「虫」。

白い眉毛がチャームポイントの子育てに生懸命な優しいお母さん。ボンシャットに入っている赤ちゃん、双子のイチちゃん(男の子とカイチちゃん)の子。いつも明るく元気だが、暗くて狭いところは苦手。



市貝町マスコットキャラクター

サシバのサッチちゃん

栃木県市貝町

2013年に「道の駅サシバの里いちかい」をPRするために誕生した、「サシバ」をモチーフとしたキャラクター。「サシバ」とは、春になると日本に渡ってきて、豊かな自然の中で子育てをするタカの一 종류です。そんな特性を持っているので、「サシバのサッチちゃん」も子育てママ。ポシエットで我が子と連れて、どこへでも出かけて行きます。わいわいと人が集まる場所が大好きなので、「サシバの里いちかい」に頻繁に出没するのだとか。

「ピクイーン」と「サシバ」の可愛らしい鳴き声が響く、豊かな自然を有する市貝町。「サシバの里いちかい」や美味しいお米・野菜などの特産品をPRするため、「サシバのサッチちゃん」は、これからも町民祭などの町内イベントや、町外のご当地キャラクターイベント等に積極的に参加していきます。

今回は、中ブロック(北信・東海・近畿)からご紹介します

情 報



JICA海外協力隊は途上国の課題を解決し、地域の人々を元気にしてきました。世界を元気にしてきた協力隊経験者は日本の町村も元気にします。

町村も元気にする JICA 海外協力隊。第2回目は青年海外協力隊員としてコスタリカで活動後、長野県松川町で地域おこし協力隊として活動する白井瑞穂さんを紹介します。

ホストタウンとしての魅力づくり
海外経験に期待

東京オリンピック・パラリンピックでコスタリカのホストタウンに認定されている長野県・松川町。戦後の生活改善運動の取組の経験を有し、(独)国際協力機構(JICA)の研修地として、世界各国から研修員を受け入れてきました。その後、JICA事業を通じてコスタリカを支援した縁から、同国のホストタウンとして2016年12月に登録、その後認定されています。

しかし、このような経緯はごく一部の町民だけしか知らず、大半の人々は突然始まったホストタウン事業に戸惑いを隠せませんでした。そうした中、松川町の「地域おこし協力隊(ホストタウン推進員)」に応募し採用されたのが、白井瑞穂さんでした。

青年海外協力隊で得た
無から有を創り出す力

大学では日本語学と日本語教育学を専攻し、海外勤務を夢見ていた白



大学の文化祭に学生と日本文化を紹介するブースを出展

井さんは青年海外協力隊に参加して、中米コスタリカの国立大学で日本語の指導に当たりました。

日本の漫画やアニメの影響からコスタリカでの日本語人気は高く、学期ごとに100人以上の学生を指導していた白井さん。学園祭では学生たちと日本ブースを出展し、学外でも日本語教師会の仲間と協力しながら、弁論大会や日本語能力試験の実施などにも取り組みました。特に力を入れたのは日本文化紹介などのイベント運営です。

「日本祭りを計画し、多くの人たちと交渉しながら企画を進め、実現までこぎつけた経験は自信になりました。話を聞いてくれる人がいることも分かり、「やってみれば何とかなる」という気持ちで以前よりも強くなりましたね」

白井さんは、こうした経験を活かしながら、離れがなくなるほど好きになったコスタリカの魅力をも日本に広めていきたいと、松川町の地域おこし協力隊に応募、採用されました。

地域を元気づける
ホストタウン交流事業とは

白井さんは町民たちに「なぜコスタリカのホストタウンを松川町が実施するのか」を丁寧に説明するとともに理解を広げるため、コスタリカ料理やスペイン語を学ぶ文化体験をはじめコスタリカ人との交流イベント、地元高校生を対象とした現地スタディーツアーなど、思いづく限りの交流事業を企画・実施していきます。「見ず知らずの土地で活動していくには現地を知り、人々と積極的に関わり、一緒に考えて行動することが大切です。その点が、青年海外協力隊と似ていますね」白井さんがコスタリカで築いた人脈は、今の仕事にも大いに役立っています。

「日本に留学するコスタリカ人があると、現地の日本大使館やJICA支所から連絡が入るので、松川町に招待し、町民たちと交流してもら



コスタリカの柔道選手と町の子どもたち

う流れができています。また、コスタリカ料理に必要な食材や調味料を、現地から帰国する青年海外協力隊に仕入れてき

情 報

てもらったりして、とても助かって
いますね」

「コスタリカとの交流事業に懸命に
奔走する白井さんを見て、町民たち
も動き出しました。以前イベントに
協力した町民3人が中心となり、「コ
スタリカくらぶ」を設立。今夏、初
めて祭りを開催したのです。」

ステージでは、スペイン語の歌や
コスタリカの国歌を歌う町民たち
の姿がありました。コスタリカの伝統
ダンスを見た小学校の先生が、子ど
もたちと練習をして、選手団歓迎の
ときに踊ってみたいとの声も。

「ホストタウン交流事業は、行政
主導というよりも、町民たちの自発
性、主体性が大切です。それによっ
て地域全体が盛り上がり、こんな
にうれしいことはありません」と笑
顔を見せます。

子どもたちの視野を広げる
現地スタディーツアー

2019年3月には、地元高校生
10人を連れてコスタリカへのスタ
ディーツアーを実施しました。事前
研修として、自身が生まれ育った松
川町について勉強したことが思いの
ほか高校生には好評で、「先生以外
の大人たちの中に入って学ぶことが
楽しかった」「町が好きになった」
という声が上がったのです。

また、現地ではコスタリカの高校
生との交流やホームステイなどを通



ホストタウンリーダー賞受賞

して大いに刺激を受けた高校生た
ち。「将来は留学してみたい」など、
今まで考えなかったような選択肢を
持つようになりました。

「ホストタウン事業を通してコスタ
リカ人と直接触れ合える機会をつく
り、子どもや若者たちが世界に目を
向けるようになり、町内でも新しい
つながりや活動が広がれば、松川町
がホストタウンになった意味がある
と思います」と白井さんは話します。

ホストタウンリーダーとして
2020年まで駆け抜ける

今年2月に開かれた「ホストタウ
ンサミット2019」(東京オリ
ンピック・パラリンピック推進本部主
催)において、ホストタウンに登録
されている約300の自治体の中か
ら、白井さんら4人が「ホストタウ
ンリーダー」として表彰されました。
ほかのホストタウンの模範となる
ような取組の中心的な役割を果たし、

卓越したリーダーシップを発揮して
いることを評価されたのです。

事前合宿を誘致し、企業と連携し
てメディアにもよく取り上げられる
ような大きな自治体とは一線を画す
松川町ですが、町民たちを巻き込み、
地域に根差した活動を進めている点
が認められました。

白井さんの地域おこし協力隊とし
ての任期は2020年11月まで。

「残り一年でもっと多くの人たち
に参加してもらい、2020年には
町全体でコスタリカを応援したい。
そして大会後も人々の心や生活の中
に少しでもコスタリカが残るような
活動を展開していきたいです」

コスタリカのオリンピック・パラ
リンピック選手たちを、とびつきり
の笑顔でお迎える松川町の皆さん
の姿が目につかびます。

松川町教育委員会 生涯学習課
生涯学習・男女共同参画係
係長 片桐 比呂巳さん



白井さんは、持ち前の行動力や明
るさから町民たちとすぐに打ち解
け、ホストタウン事業の理解を広め
てくれました。また、町民や次世
代を担う若者たちに世界への関心
を高めさせるなど、2020年以降も町に残るレガシーを創り
出してくれています。
町民が主体的に取り組むようになったのは、自ら率先しつつ、
多くの人々を巻き込みながら物事を進めていく、白井さんの
熱意と行動力があってこそ。町を盛り上げるために、さらに
邁進して行って欲しいですね。

■ 帰国隊員との出会いの機会「キャリアフェア」のご案内

「キャリアフェア」は帰国したJICA 海外協力隊員と帰国隊員の活用に関心
を持つ自治体、省庁、団体等の皆様に帰国隊員の「人材」としての可能性を感じ
ていただく交流の場です(今回紹介した白井さんのように熱意と行動力を持つ
帰国隊員と交流することができます)。ご関心があれば、下記の問い合わせ先
に気軽にご連絡ください。



会場の様子

- 開催日程：2020年2月18日(火) (2019年度第4回キャリアフェア)
- 会 場：JICA市ヶ谷ビル(地球ひろば)国際会議場(東京都新宿区市谷本村町10-5)
- 問合せ先：JICA 青年海外協力隊事務局人材育成課 (TEL/03-5226-9323、jvtpc-sinrosien4@jica.go.jp)

情 報

●白菜

12月に入り、寒さが厳しくなると、白菜は甘みが増し、おいしくなる。霜にあたるとより甘みが増し、「霜降り白菜」とも呼ばれている。

鍋物や漬物に欠かせない「冬の野菜の女王」だが、日本での栽培の歴史は浅い。中国では、7世紀ごろから栽培されているのに、日本で本格的に栽培されるようになったのは、大正時代以降だ。江戸時代以前にも漬物用の野菜として渡来していたが、同じ種の小松菜やカブと交雑して種が確保できなかったため、日本での栽培が遅れたのだという。

ビタミンCやビタミンK、葉酸などを含む。味は淡泊で、煮物や炒め物、鍋料理、漬物など、どんな料理にも合い、火を通すとやわらかくなる。

●開高健

小説、紀行文、ノンフィクション、エッセー……。幅広い分野で傑作を残した作家。大阪生まれ、大阪市立大学法文学部卒。1954年に寿屋(現・サントリー)に入社し、PR誌『洋酒天国』の編集やコピーライターとして活躍。58年『裸の王様』で芥川賞を受賞した。

『日本三文オペラ』では、戦後の大

季節に拾う・新歳時記(12月)

小牧規子(ジャーナリスト)

阪で兵器工場跡地のくず鉄を集めて暮らす「アパッチ族」を描いた。数度にわたってベトナム戦争の最前線取材し、『ベトナム戦記』や長編小説『輝ける闇』『夏の闇』などの作品を残した。また、アマゾン川などでの釣行をつづった『オーパ!』や、食のエッセーなど幅広く活躍した。1989年12月9日、食道がんで死去。58歳だった。

●冬至

今年の冬至は12月22日。二十四節気の一つで、1年で昼の時間が最も短い日だ。この日を境に日ごとに昼が長くなっていく。古代の西洋では、これを「太陽の新生」として盛大な祭りが行われていた。古代ローマでは、この祭りが行われた12月25日を「キリストの誕生日」と定めて、布教に活用したのがクリスマスが始まりだという。

「一陽来復」。冬至の代名詞でもある。日本ではこの日、ゆず湯に入ったたり、カボチャを食べたりする風習がある。ゆず湯は江戸時代末期、銭湯が客寄せのために始めたといわれ、冬至にゆず湯に入ると風邪をひかないと信じられている。カボチャを食べる風習は、明治に入ってから。元気に年を越して、良い年を迎えたい。

町村専用ページ「町村.com」をご覧になっていますか

<http://www.zck.or.jp/choson/>

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員のみなさんの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁などの政策情報を随時ご提供しているほか、全国の町村の先進的な取り組み事例をはじめ、各種統計資料など様々なデータも公表しています。

私どもは、「町村.com」が町村関係者にとって真に役立つホームページとなることを目指し、これからも充実をはかっていきたいと考えています。ご覧になったご感想・ご意見を、下記のメールアドレスにお寄せください。

kouhou@zck.or.jp

- ・「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。ご覧になる際は、所定のパスワードが必要になります。
- ・ユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ済み(平成18年9月27日付)ですが、お問い合わせは、全国町村会広報部(kouhou@zck.or.jp)までお願いいたします。

随 想

真の豊かな島暮らし



い ち ち さねとし
 わどまり 鹿児島県和泊町長 伊地知 実利

鹿児島県和泊町は鹿児島市から南西方向530kmに浮かぶ沖永良部島の東北部に位置する人口6、551人(2019・10・1現在)の小さな町である。沖永良部島は周囲55・8km面積93・6km²の木の葉状の島で、隣の知名町と本町の2つの行政区から成り立っている。島は隆起珊瑚石灰岩で覆われており、最高峰は知名町の大山(標高240m)、本町の

最高峰は越山(標高188m)があるのみで平坦な段丘状の地形で耕地に恵まれている。河川が少なく地表の水源に乏しいが、地下には200以上の鍾乳洞が発達しているため地下水源は豊富である。

本町は面積40km²、21の集落からなり、人口密度は162人、耕地面積2、350ha、耕地率58・2%と耕地に恵まれている。年平均気温22・4℃、年平均降水量は1、836mmの温暖な気候を活かして、明治時代から外貨を稼ぐため、百合の球根栽培が始まっており、その技術を継承発展させた園芸作物の栽培が盛んである。産業の柱を農業として位置づけ、サトウキビ・輸送野菜・花き・肉用牛を組み合わせた複合経営が定着しており、平成28年度の販売農家戸数は736戸、農業生産額は75億円(奄美群島の概況)であり、販売農家1戸当たり農業生産額は1、018万円となっており農業の町としての地位を築いている。

全国と同様に人口減少に歯止めはかからないものの、日本創生会議の絶滅可能性都市から外れるなど人口の減少率は低い。そのことは、産業として雇用を確保する大きな企業は無いものの、農業後継者が定着して

おり、特に収益性の高い切花栽培農家、子牛価格が堅調な生産牛農家等には後継者が確保されやすい状況にあることが要因と考えられる。今後とも本町農業は切花栽培と土地利用型のサトウキビ栽培、馬鈴薯栽培、生産牛農家に集約されていく可能性が大きい。さらに新たな農業の展開を図るには長距離輸送コストに耐える新品目や加工品の研究開発が避けられない課題である。

沖永良部島は、他の奄美群島と同様に西暦1200年代から琉球三山時代の北山王の支配下であり、その後1609年の薩摩の琉球侵攻、明治維新の廃藩置県により行政上鹿児島県に配属されて以降も現在まで琉球文化圏である。伝統舞踊はもちろんのこと、方言は沖縄北部の国頭語といわれる絶滅危機言語であり、民謡・食文化・生活様式等色濃く琉球文化の影響を受けている。本町では平成7年から町営の有線TVにより自主放送を含めて地上波12チャンネルを各家庭に配信しているが、そのうち4波は沖縄県のTV局である。また、本町は西郷隆盛が藩主島津久光の怒りに触れて、文久2年から1年半配流され、その在島期間中に「敬天愛人」の大思想を確立した地

であり、大西郷が島の人たちに与えた教育・道徳・政治の要諦等の影響は極めて大きなものがある。穏やか、勤勉、進取の気性といった町民性の醸成には西郷の教えが大きいといわれている。そのことを受けて本町は昭和55年に「教育の町」を宣言し、「人づくり」「土づくり」「健康づくり」「花づくり」を町民4大運動として推進しているところである。健康づくりの成果として、一人当たりの医療費は平成28・29年度ともに鹿児島県下で最低となっている。一方で、花きの販売額は30億円を維持しており安定した農業経営が実現されている。

少子高齢化、人口減少は全国的に避けられない現実であるが、AI・IoTの時代といわれるIT社会の中で今後とも農業を産業の核として位置づけ、琉球と薩摩の文化を礎として、安定した農業生産性を確保しつつ、豊かな自然、温暖な気候、温かな町民性、ゆったり流れる島時間の中で真の豊かな暮らしを求めて、令和の新しい時代に定住促進と観光と福祉、農業を結びつけた町の振興発展に取り組んでいかなければならないと考えるところである。



車両共済(保険)のご案内

(一般自動車保険の車両保険)

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆さまなら!

- 無事故による割引で新規から **43%(保険料)割引**
 - ・ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去3年無事故の場合は、ノンフリート等級9等級からスタートします。
- 集団扱年一括払による割引でさらに **5%割引**
 - 保険料分割払(12回)も選択可能です。
 - ・保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払の5%割引の適用はありません。

さらに 無料ロードサービスがついてきます。

ご契約のお車が、事故、故障で自力走行できなくなった場合、事前にロードアシスタンス専用デスクにご連絡ください。ロードアシスタンス業者にお取り次ぎし、レッカーや30分程度の緊急修理などを手配します。 ●バッテリー上がりや、キー閉じこみ、ガス欠 など

- ・掛金(保険料)は、型式、初度登録年月、年齢条件、運転者限定特約の有無、共済(保険)金額、等級などにより異なります。
- ・このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

※この車両共済(保険)をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

●お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

TEL

(受付時間：祝日、年末年始を除く月～金 午前9時30分～午後5時)

0120-731-087

FAX

03-3519-7325

株式会社 千里(取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内

●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
- 集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損害保険ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

[SJNK17-16682(2017.12.28作成)]

さまざまな「集いの場」を 演出いたします

東京でのイベントに最適な
絶好のロケーションを誇る全国町村会館。
かけがえのないひとときを、
上質なサービスでおもてなしいたします。

県人会など同郷者の集い、
同窓会、親睦会などの懇談会

観光PR、移住セミナー
職員採用試験などの説明会

職員旅行・家族旅行

広さと設備が多彩な大ホールと、3つの
会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用
いただけます。



和・洋食のレストランも お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



カジュアルレストラン「ペルラン」



和食処「さいから」

客室のイメージ	SINGLE ROOM シングル 119室	DOUBLE ROOM ダブル 12室	TWIN ROOM ツイン 18室

和室もございますのでお問い合わせください。(禁煙ルームもご用意しております。)
※市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。



ご予約・お問い合わせ

全国町村会館
TEL.03(3581)0471
FAX.03(3581)0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号
ホームページアドレス <http://www.zck.or.jp/kaikan>

- 全国町村会館へのアクセス
- ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
 - ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
 - ・タクシー東京駅から約20分

